2011年度　看護部年間研修計画

信楽園病院看護部教育委員会

豊かな人間性をもち、臨床実践能力に優れ、自律した行動がとれる看護師を育成する

対象		到達目標	ねらい	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レベルⅠ	新人看護職員研修	①看護職員としての自覚と責任ある行動がとれる。 ②基本的な知識・技術を習得し実践できる。 ③それぞれの科学的・法的根拠を理解してチーム医療における自らの役割を認識した上で実践できる。 ④看護に関する倫理上の諸問題を明らかにし、自己の倫理的感性を磨く。	①患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立できる。 ②病院・看護部の組織における役割を理解し、組織の一員として適切な行動がとれる。 ③自己・他者評価を踏まえ、課題解決に向けて行動できる。 ④習得した知識・技術が安全・確実に実践できる能力を養う。 ⑤チーム医療における自らの役割を認識し実践できる。 ⑥医療、看護における基本的倫理の考え方を理解する。 ⑦日々の臨床場面における倫理的諸問題解決のための行動がとれる。	1～6日 新人ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 静脈注射研修Ⅰ 7､15日 ﾛｰﾃｰｼｮﾝ技術研修 20日 安全確保技術	6日 食事援助技術 18日 輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ研修 26日 静脈注射研修Ⅱ	2日 救急救命処置技術 23日 3ヶ月目ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ研修	7日 創傷管理技術	4日 安全確保技術	1日 症状・生体機能管理技術（心電図）	27日 6ヶ月ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ研修 6日 静脈注射研修Ⅲ（輸血・麻薬）	4日 呼吸・循環を整える技術（看護）	1日 呼吸・循環を整える技術（サーボ）	5日 退院支援について	15日 1年ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ	
	卒後二年研修	①受け持ち看護師として看護過程を踏まえた個別的ケアができる。 ②専門領域における看護の知識・技術を深めることができる。 ③自己の看護実践を振り返り、分析する。	①確実な知識・技術をもとに患者状況に応じたケア方法を選択、エビデンスを基に実施できる。 ②受け持ち患者の看護を通して専門性を深めることができ、自分の行う看護に自信を持つ事ができる。 ③次は自分がプリセプターであるという自覚を持ち後輩の指導にあたる。	8日 卒2ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	13日 心電図研修	10日 救急看護技術	8日 サーボ装着患者の看護	12日 サーボ勉強会	9・16日 ﾅﾗﾃｨﾌﾞ発表会	7・14日 ﾅﾗﾃｨﾌﾞ発表会				卒2反省会　10日	
レベルⅡ	卒後三年研修	①エビデンスに基づいた確実な看護技術を習得する。 ②専門的知識・技術を持ち実践することができる。	①看護を科学的、理論的に分析・考察しエビデンスに基づいた確実な看護技術を提供できる。 ②自己の看護を振り返り、自己学習の姿勢を確立する。 ③習得した看護技術を後輩指導できる。	28日 静脈注射技術Ⅲ（抗癌剤・造影剤） （静脈注射委員会）			21日 企画研修 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	25日 救急勉強会 （救急ケア委員会）	8日 企画研修1回目		10日 企画研修2回目		27日 企画研修3回目	10日 卒後2年 企画研修ｱﾝｹｰﾄ実施	
	プリセプター研修	①プリセプターとしての役割を理解し責任を果たすことができる。 ②プリセプティがリアリティショックを受けないように指導援助できる。	①プリセプターシップ、屋根瓦方式について理解できる。 ②プリセプティの問題解決のための方法・手段を学ぶ。		12日 1ヶ月評価　GW 講義「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」技術について		28日 3ヶ月評価　GW 講義「ﾘｱﾘﾃｨｼｮｯｸ」について			28日 6ヶ月評価　GW 講義「個人に合わせた関わり方」について				12か月評価 ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰとしての学びと反省　9日	次年度プリセプター研修
レベルⅢ	教育担当者研修	①プリセプターシップ、屋根瓦方式について理解し、病棟スタッフへの協力依頼ができる。 ②プリセプティとプリセプターの問題を明確にでき、問題解決においてリーダーシップを発揮できる。 ③エビデンスに基づいた熟練した看護技術の指導ができる。	①プリセプターへの助言、援助を行い病棟全体でプリセプティの育成サポートができるよう調整できる。							13日 6ヶ月評価・反省会				12か月評価　23日	24年度教育担当者研修　OJT計画・立案　6日
	倫理研修	看護に関する倫理上の諸問題を明らかにし、自己の倫理感性を磨く。	①医療、看護における基本的倫理の考え方を理解する。 ②日々の臨床場面における倫理的諸問題解決のための行動がとれる。			21日 レベルⅢ対象 倫理研修			各部署倫理担当者 中間報告会　13日					17日 各部署倫理担当者 最終報告会	23日 各部署次年度 計画発表会
	看護管理研修	①看護実践において、ロールモデルとして後輩を育成することができる。 ②部署の看護業務改善に向けてリーダーシップを発揮することができる。	①看護実践においてロールモデルとなり後輩を指導できる。 ②習熟度の未塾な看護師に対して知識や技術の習得を支援できる。 ③患者の生命や人権を尊重した行動がとれる。 ④患者の安全性を維持する為後輩を指導できる。 ⑤看護業務の改善に向けて創造的に行動できる。		28・29日 看護管理研修 （PDM）						4日 経過報告会				2日 報告会
看護助手研修		医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助業務を理解し、行動できる。	①医療安全と感染防止の技術を学び実践することができる。 ②病院の機能と組織を理解する。			30日 安全確保の技術を学ぶ（リスク）			29日 感染防止について （リンク）		24日 人間関係と チームワーク（倫理）				
勉強会															